

令和4年度 学校評価報告（集計結果と考察・改善策）

【総合判定】 A(平均肯定率90%以上) B(平均肯定率80%以上) C(平均肯定率70%以上) D(平均肯定率70%未満)

【肯定率】 4段階評定の4と3の肯定的評価の割合(%)

【評定】 4:とても思う 3:やや思う 2:あまり思わない 1:全く思わない

評価領域	評価指標	総合判定	平均肯定率	対象	肯定率	評定(%)				考察と改善策
						4	3	2	1	
教育課程・学習指導	学校は、松山の授業モデルをもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	A	94	児童	97	68	29	2	1	「教育課程・学習指導」に関しては、引き続き、児童の実態をしっかりと把握し、個々が学ぼうとする意欲を持続させながら学習に取り組めるようタブレット端末の活用等を含めた学習指導の創意工夫・改善に努める。今後は、Teamsを使った双方向の交流を積極的に行っていくようにする。また、児童に使用する上でのルールをしっかりと徹底させ、適切な活用法が身に付くよう指導を続ける。
				教職員	93	32	61	7	0	
				保護者	91	14	77	7	2	
	学校は、教科等の指導においてタブレットの活用等、効果的にICT機器を活用している。	A	95	児童	94	59	35	5	1	
				教職員	100	36	64	0	0	
				保護者	91	19	72	8	1	
	学校は、児童の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	A	94	児童	97	70	27	2	1	
				教職員	96	39	57	4	0	
				保護者	88	12	76	11	1	
人権・同和教育・生徒指導	学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	A	92	児童	93	72	21	4	3	「人権・同和教育・生徒指導」に関しては、今後も個に応じたきめ細かな配慮を心掛けたり、言動に気を配ったりして児童が安心して学校生活を送ることができるようにする。また、生徒指導部会での情報交換を共有し、教職員が共通理解を図り指導するようにする。
				教職員	96	50	46	4	0	
				保護者	88	13	75	11	1	
	学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童の実態に応じた適切な指導や支援を行っている。	A	93	児童	95	69	26	3	2	
				教職員	96	29	67	4	0	
				保護者	88	13	75	11	1	
キャリア教育	学校は、将来に夢をもち、自分の進路や生き方について考える児童を育てている。	B	87	児童	93	62	31	5	2	コロナ禍の中でも実施可能な範囲で体験活動を充実させるとともに、キャリア教育の推進に向けてカリキュラムの構築を図る必要がある。
				教職員	89	18	71	11	0	
				保護者	79	9	70	19	2	
安全管理	学校は、児童に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	A	96	児童	97	80	17	2	1	校内外での安全な過ごし方の指導や地域や保護者の見守りを今後も連携して行っていくなど安全指導を継続する。
				教職員	96	60	36	4	0	
				保護者	95	18	77	4	1	
保健管理	学校は、個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童の健康保持・増進に努めている。	A	97	児童	98	77	21	1	1	「保健管理」に関しては、組織的に新型コロナウイルス感染症予防に取り組んでいる。「マスク着用」「換気」は定着しているが、「手指消毒」に課題が残っているため、重点的に指導を継続していく。マスクを外せる場面では、教職員が率先して外すようにしていく。
				教職員	96	71	25	4	0	
				保護者	96	20	76	3	1	
	学校は、「3密を避ける」「状況に応じたマスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」など、校内における新型コロナウイルス感染症対策を適切に行っている。	A	96	児童	97	80	17	2	1	
				教職員	96	43	53	4	0	
				保護者	94	23	71	4	2	

特別支援教育	学校は、特別支援教育の視点をもって教育活動に取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。	A	93	児童	96	73	23	2	2	「特別支援教育」の視点で個を大切にした配慮や支援を今後も継続していく。また、教育相談を充実させ、保護者の思いもしっかりと受け留めた関わりを充実させていく。
				教職員	93	43	50	7	0	
				保護者	89	16	73	10	1	
組織運営	学校は、新型コロナウイルス感染症対策や相談事案等、管理職や学年主任等を中心として組織的に対応を行っている。	A	95	児童						「組織運営」に関しては、教職員の誠実な対応により、保護者との良好な信頼関係を築いていると思われる。今後も継続していくようにする。
				教職員	100	54	46	0	0	
				保護者	90	18	72	8	2	
研修	学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に研修に改善に取り組んでいる。	A	91	児童						教員間のICT等を活用した指導に差が出ないように、タブレット等の効果的な活用法について研修を行っている。今後も、教職員のICT等の活用力を高め、授業改善に努める。
				教職員	93	50	43	7	0	
				保護者	88	12	76	10	2	
保護者・地域連携・情報提供	学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	A	94	児童						「保護者・地域連携」に関しては、地域と保護者の連携について見直しを行い、実施していくようにする。「情報提供」に関しては、B評価である。コロナ禍において学校の教育活動が見えにくいため、ホームページの更新を行うことで、児童の活動の様子を積極的に発信するよう一層努める。
				教職員	96	46	50	4	0	
				保護者	91	12	79	7	2	
	学校は、学校・学年だよりやホームページ、メール等により、積極的に情報を発信している。	B	89	児童						
				教職員	93	32	61	7	0	
				保護者	85	15	70	14	1	
教育環境	学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。	B	89	児童						目当てや学習のまとめなどの板書計画の共通理解は図られた。教室や掲示コーナーの展掲示について、今後共通理解を図り、充実させていく。
				教職員	86	11	75	14	0	
				保護者	91	11	80	8	1	
幼・保・小・中連携	学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	B	80	児童						「幼・保・小・中連携」では、1項目に関して、C評価であるが今年度は、中学校との連携について実践してきた。今後も、学校間の継続性を重視しつつ、個々の児童に基礎的な学力を定着させよう努めていくようにする。また、幼稚園や保育園との連携は、昨年度と同様コロナ禍のためできなかったが、状況を見ながら、できることを行うようにして連携を図っていく。保護者に対しても、連携の様子を理解していただけるよう情報提供の仕方について工夫していきたい。
				教職員	86	11	75	14	0	
				保護者	73	5	68	23	4	
	学校は、教育の質の向上のために関係園・校で連携し、学校間の系統性を重視した学習指導を行っている。	C	78	児童						
				教職員	79	8	71	21	0	
				保護者	76	6	70	20	4	
	学校は、関係園・校で連携し、児童に対する教職員の理解や、児童の相互理解の促進を図っている。	B	82	児童						
				教職員	86	11	75	14	0	
				保護者	78	6	72	19	3	

その他	お子さんは、学校に楽しく通っている。	A	94	児 童	96	83	13	4	2	児童は、概ね楽しく学校に通い、学校生活において思いやりの気持ちをもって仲良く活動できている。「挨拶」「手伝い」に関しては、昨年度のC評価のがB評価となり、今年度重点的に指導してきた成果が表れつつある。しかしながら、「家庭学習の習慣」「読書」に関しては、D評価、「学年に応じた基本的な学力」に関しては、C評価である。「家庭学習の習慣」については、昨年度もD評価であったため、教職員で家庭学習の習慣化と定着を図るため、粘り強く指導を継続してきているが、十分な成果が得られていないのが現状である。「読書」に関しては、「親子読書チャレンジ週間」を設けたり、6年生や先生による読み聞かせなど、読書への関心を高める工夫をしたが、家庭での読書にはつながっていないのが現状である。今後さらに家庭との連携を強化し、家庭への啓発を継続・充実させながら対応していきたい。
				教職員						
				保護者	92	38	54	6	2	
	お子さんは、家庭や地域で挨拶ができる子に育っている。	B	85	児 童	87	45	42	10	3	
				教職員						
				保護者	83	19	64	16	1	
	お子さんは、友達を思いやり、仲よく活動できている。	A	96	児 童	95	70	25	3	2	
				教職員						
				保護者	96	32	64	4	0	
	お子さんは、家庭学習の習慣が身に付いている。 学年×10分+10分 (例)6年生 6×10+10=70(分)	D	67	児 童	81	44	37	15	5	
				教職員						コロナ禍ではあるが、状況を見ながら、行事などができる範囲で行うことで、学校での出来事について保護者に伝える児童が増えてきている。このような取組を通して、学校への信頼度が高めていくようにする。
				保護者	52	13	39	41	7	
	お子さんは、学年に応じた基本的な学力が身に付いている。	C	75	児 童						
				教職員						
				保護者	75	12	63	22	3	
	お子さんは、読書に親しんでいる。	D	66	児 童	80	44	36	15	5	
				教職員						
				保護者	52	19	33	38	10	
	お子さんは、家の手伝いや仕事ができる子に育っている。	B	80	児 童	84	44	40	13	3	
				教職員						
				保護者	75	17	58	24	1	
	学校のことについて家の人とよく話している。	B	83	児 童	83	55	28	11	6	
				教職員						
				保護者						
	堀江小学校は安心して通える学校である。	A	95	児 童	95	79	16	4	1	
				教職員						
				保護者						
				児 童						
				教職員						
				保護者						